

【タイトル】 3 部会合同一泊研修会

【日 時】 平成 23 年 10 月 1 日～2 日

【場 所】 鬼怒川プラザホテル

【概 要】 女性部会、税務研究部会、源泉部会の3部会合わせて、38 名が参加して行われた。

今回は、昨年まで3部会それぞれに単独で開催してきたものを、他の部会との交流をはかるという観点から、試行的に実施されたもので、本部からも松本会長、積田担当副会長も出席した。

当日は、当会の元会長で(株)船橋屋の渡辺孝至会長を講師に迎え、「京都の老舗17店舗に学ぶ」というテーマで講演された。



渡辺会長は冒頭、船橋屋は2百6年続いている老舗であるが、当主を引き継ぐにあたり、先代から①信頼できる後継者育成のために努力せよ②一つの事業を成功した時に、自分の力で成し遂げたとうぬぼれを持つな。全ては先祖の汗と努力のたまものであり感謝せよ③事業をより発展させなければ家族、親戚、社員、得意先を大事にせよ。とこの三点について申し送られ、この繰り返しで今日の船橋屋があるという。

日本には、創業百年以上の老舗は1万5千件、2百年以上は3千社で、フランスで老舗は8百社あるものの、諸外国ではあまり老舗というものはなく、日本はズバめけた老舗大国である。



その理由は、①島国であるため他の国から侵略がない②血族よりも企業の存続を優先する③もの造り尊ぶ文化と伝統がある。これらが上手に調和され相乗効果となっている。

長引く景気低迷により、老舗といわれる企業にも厳しい経営活動を強いられているところも多くあるが、逆に創業8百年、5百年といった老舗のなかには隆々としているところも

ある。特に京都にそのようなところが多い。

そのため、渡辺会長は京都に赴き、17店舗の老舗の現在の当主を訪問して、社是、家訓等の企業理念について取材したものを当会の鯨岡副会長の協力を得て冊子にまとめられた。現在、本誌で連載中の「京都の老舗17店舗に学ぶ」である。

渡辺会長は、これら17店舗に共通していえることは倫理観であり、人様がいて自分がある。だからこそ人様のために役立ちたい。これが基本であり、儲けを優先するのか世の中の役にたつのかと訊かれたら、後者を選んだ老舗は隆々と続いている。

渡辺会長が取材する中で、「経営が行き詰まって廃業や事業の転向を考えたこともあったが、家訓、社是という原点に立ち返って経営を実践したところ、立ち直ることができた」と話された当主もいたという。

最後に、17店舗それぞれの社是、家訓を渡辺会長が紹介して講演を結んだ。

